

地小出版

情報誌

アクセス

毎月1回 1日発行
購読料 定価150円
(本体136円)
年間1,500円(税込み)
振替 00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

闘病記を手掛け25年 専門図書館「闘病記の森」開館

文/株式会社星湖舎 代表取締役金井一弘

はじめに、少しだけ昔話をさせてください。

今から40年も前のこと、出版業界に身を置くにあたって学ぶべきものが多いと、業界の会合やセミナーに盛んに参加しました。その時に出会った経営者からは「(儲からないから)闘病記に手を出してはいけない」、編集者からは「(暗くて楽しくないから)闘病記の編集に関わってはいけない」と聞かされ続けました。闘病記に対する業界のマイナスイメージを刷り込まれました。

1999年7月20日(海の日)に星湖舎を立ち上げました。当初は自分史の自費出版を手掛ける俗にいう「ひとり出版社」でした。

創業当初から闘病記や障害者の本の制作が、なぜか次々と舞い込みました。私の前に現れる著者たち、すなわち闘病中の人々や障害と生きている人々は、なぜか明るくポジティブな人々ばかりでした。そんな人たちの本が暗くて楽しくないといわれるのはおかしいと感じました。

運命的な出会いもありました。手話が地域によって違うことを教えてくれたろうの人たちの本(『これが大阪の手話でっせ』絶版)は、爆発的に売られました。毎夜人の書いた闘病記を抱きしめて寝ている白血病の女性は、今度は自分が闘病記を執筆して人に元気を与えるのだと語り、闘病



2023年12月、専門図書館「闘病記の森」開館



2025年6月末時点、1300冊ほどの蔵書

記が命のバトンのように受け継がれていく存在であることを教えてくれました(平美樹著『病院を出よう!』)。

星湖舎の出版物が闘病記や障害者の本に注力されるにつれ、他社から出で



これが大阪の手話でっせ / 2001年2月発行、現在絶版/税込定価1650円、ISBN978-4-921142-53-7

病院を出よう! ネコの脱出奮闘記 / 2004年3月発行、税込定価1320円、ISBN978-4-921142-70-4

いる本を研究しようと買い集め、気が付けば900冊ほどになっていました。

また、2年前に亡くなった妻が病気と障害を抱えて暮らしていましたので、大阪にある主だった総合病院の様々な科を受診し、病院の対応の違いや病気にはそれぞれ当事者会や家族会があることを知りました。

そして、今があります。

資料を眠らせているのはもったいない

2023年12月、編集室のあるビルに空き室がでたので、闘病記ばかりを集めた私設の専門図書館「闘病記の森」を開館しました。



図書館の入口ドア

創業当初に出会った闘病記研究会(現在休会中)のメンバーたちとの話の中で、東京にそのような専門図書館ができるよと話題になっていた

のですが、闘病記の古書店パラメディカができたらいいで、図書館ができることはありませんでした。

そこで資料として抱えている闘病記を眠らせているのももったいないと、闘病記の専門図書館を開設したのです。

大阪にできたことがよほど珍しかったのか、新聞各紙、NHKや民放テレビ局の取材が次々とあり、連日訪問者の対応に追われることになりました。

余談ではありますが、闘病者はよくしゃべります。自分のことを理解してほしいと、とにかく初めて来られる人は最低でも30分は話をされます。「闘病記の森」オープン当初は一般公開していたのですが、お話を聞きお勧めする本を選定する際に、他人がいふと聞かれてたくない内容もあるので話しづらいようでした。一方、本を静かに読

んでいる人にとって隣で大きな声で病院の悪口（後述します）を聞かされたり、落ちちで読書できないことがわかり、今では予約制であります。

「中央」と名の付く大きな図書館には最近では闘病記コーナーがあり、また大きな病院では患者情報室として図書コーナーが充実しているところも増えてきました。そういったところの司書たちとも交流しますが、タレントなど有名人の闘病記はすぐに購入できるけれど、無名な人の闘病記には予算が下りないと皆さん口をそろえておっしゃいます。年間100冊ほどの闘病記が出版されますが、ならば「闘病記の森」は新刊をもれなく購入してやろうと思いました。昔の闘病記の中には名著と呼ばれるものもありますが、できるだけ新刊を中心に集めていこうと心掛けています。

2025年6月末時点で、1300冊ほどの蔵書となっています。

闘病記の役割とは？

闘病記とは、病と直面する本人、あるいはそれを側で支える家族が、その記録や思いを綴った書物のことです。

では、闘病記の役割とはなんでしょうか。

まず第1に、医師や看護師など医療従事者からは伝わってこない患者の本音を知ることのできる情報源であるということです。

例えば、「初期症状はどう対応したのか」「症状が深刻化（悪化）した時に治療方法をどのように選択したのか」「退院後はどのような暮らしをしたのか」「再発や副作用の不安などどのように向き合ったのか」など、病気との向き合い方の経験が語られています。

また、医師と患者のコミュニケーションの問題が話題となっていますが、「病院や医師とどう対応すればよかつたのか」「医療従事者とどのようにコミュニケーションをはかればよかつたのか」など、「賢い患者」になるための方法が語られています。闘病記には患者学というタイトルの本もあります。

患者本人との向き合い方について、悩まれる家族や友人は多いものです。「家族はどのように本人と接すればよ

いのか」「掛けられて嬉しかった言葉／辛かった・悲しかった言葉」などを綴った闘病記が多いことわかれます。

そして、様々な民間療法の失敗体験が書き記されています。

第2には、「生きる」とは何かを考えさせられる媒体であることです。

闘病記の棚を前にすると、フィクショ

ンではないノンフィクションの圧に立ちすくみます。闘病記の著者は、同じ病気に直面する患者やその家族に役立ててほしいという強い思いで貴重な体験を書きます。そこには人生を前向きに生きようとする一人の人間の赤裸々な生き様があります。その生き様に触れることで読者は心がふるえ、感動し、時には腑甲斐ない自分を省みて涙することもあるでしょう。

第3は、病気になった時の心構えが学べることです。

良い闘病記を何冊か読んでおくことで、例えがんの告知を受けた時に頭が真っ白になって呆然とするのではなく、今後訪れる様々な状況を把握して治療法を聞くことができます。また、家族が脳卒中の徵候を見せた時にすぐさま救急車を呼ぶことで、後のリハビリによる回復が早くなることを学びます。とにかく家族が大病に直面した時に、ただただ狼狽えるのではなく、適切な行動を取るための心構えが学べて知識として備わります。

闘病記は患者の本音を知る資源

年間100冊ほどの闘病記が出版されますが、その内容は玉石混淆でお勧めできる闘病記の方が少ないので現状です。

健康食品やグッズを売りつけるような内容の闘病記や、標準治療があるのに民間療法を積極的に進める闘病記など、営利目的の闘病記が多いのが現実です。

また、闘病記には病院や医師への不満が大なり小なり書かれています。医



ろう者のトリセツ 聴者のトリセツ
ろう者と聴者の言葉のズレ
2009年11月発行、税込定価
1320円、ISBN978-4-86372-008-4



幸せを向いて生きる。クローランの病を乗り越えた「選択」のチカラ
2024年12月発行、税込定価
1980円、ISBN978-4-86372-133-3

師の前では「良い患者」を演じますのでなかなか本音を語りません。しかし、いったん治療室を出ると医師や看護師の言葉や態度に不満を語り始めます。それが闘病記には文字となって表されています。感情的に過度に不満が書かれていると読者の反感を買いますが、良い闘病記では理路整然と不満が書かれています。医療従事者にとって、闘病記は患者の本音を知る資源となるはずです。そういう意味で闘病記は「医療資源」だと私は思っています。多くの医療従事者にも読んでいただきたいのですが、忙しい勤務環境の中で闘病記を読むことが難しいことを聞かされます。だから私は、学生向けのセミナーで、学生の内に良い闘病記を3冊ほど読んでおいてほしいと訴えています。

また、闘病は1人ではできません。医療従事者との関りはもちろんのこと、家族や友人の関りも大切で、ぜひとも書いておいてほしいのです。ところが、闘病記には一人語りの本がたくさんあります。なかには人生訓しか書かれていないような闘病記もあります。

タレントなど著名人の闘病記も多く出版されるようになりましたが、自慢話や苦労話がたくさん書かれていて闘病の内容は少しだけという本が多くてがっかりします。タレントの闘病記は親しみがありよく読まれるのですが、闘病記とはこのようなものかと思われるが残念でなりません。

では、良い闘病記とはどのようなものかというと、読者という視点から次

の2点が押さえられているものだと私は思っています。一つは医療情報（治療方法やリハビリの内容など）がきちんと書かれていること。もう一つは、医師や看護師、家族や友人など人との関わりが描かれていること。文章の上手下手もありますが、とにかくこの2点が押さえられているか否かが良い闘病記の条件だと考えています。

YouTubeで番組を開設

良い闘病記の周知啓発活動をしています。

かつての闘病記研究会のメンバーと会うこともあります、表立って闘病記を探求している人の動向が聞こえてこないのが寂しい限りです。一部メンバーで、病気や障害の体験談を動画と音声で記録する認定NPO法人健康と病いの語りディペックス・ジャパンとして活動している人がいるくらいです。

ならばと、日本で一番大きながんの



YouTube「星湖舎チャンネル」

患者団体である公益財団法人日本対がん協会のホームページ「がんサバイバー・クラブ」で、良い闘病記を紹介するコーナーを担当させていただきました。

また、会社の若いスタッフの後押しもあり、YouTubeで良い闘病記を紹介する番組「星湖舎チャンネル」をスタートさせ、月2回のペースで番組を配信しています。

2017年からは「闘病記フェスティバル」を近鉄百貨店上本町店10階近鉄文化サロン上本町で、ゴールデンウィークを中心に3日間開催しています。途中コロナ禍で中断したこともありましたが、今年（2025年）も4月29日から5月1日の3日間第8回目を開催しました。それ以外にも各病気のイベントやセミナーがあれば、関西を中心にですがブース参加して闘病記に触れてもらう機会を作っています。

闘病記を題材に研究論文を発表される研究者も散見しますが、今後は海外と日本の比較研究をされる人の出現を期待しています。というのも、ひょっとすると闘病記という出版ジャンルは日本独自の進化を遂げて、一つの文化を形成しているのではないかと期待しているからです。

＊

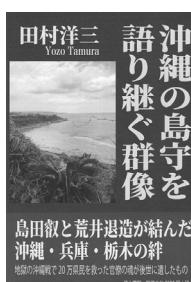
（かないかずひろ／株式会社星湖舎代表取締役）

新刊ダイジェスト

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。



『沖縄の島守を語り継ぐ群像－島田叡と荒井退造が結んだ沖縄・兵庫・栃木の絆』 ●田村洋三著



県民の四分の一、凡そ10万人もが犠牲になった沖縄戦。沖縄を本土決戦の捨て石とする軍部に抗い、県民の安全を願う一方で戦争協力を求める二律背反に懊悩しながら、20万人を県外に疎開させた県知事島田叡と県警察部長荒井退蔵。島守と称えられる二人の思索と行動は、既に著者の手で、『沖縄の島守－内務官僚かく戦えり』（中央公論新社、2003）として出されている。

島田の故郷兵庫県では、20回忌の1964年に母校旧制県立神戸二中同窓会が慰靈碑を建立し、学生時代に野球選手であったことから、沖縄県高校野球連盟に働きかけて島田杯大会を開催するなど交流を深めている。それに比べ、栃木県出身の荒井の功績は、地元で殆ど語られることがなかった。それが近年にわたり動き出した。荒井の生地清原村で暮らした元高等学校長が、たまたま前著

を手に取ったことに始まる。元校長は村長の計らいで奨学金を得て宇都宮高校に進学したが、その村長は荒井の実兄であり、高校は荒井の母校であった。元校長や同窓生らの奔走で顕彰と交流の機運が高まり、フォーラムの開催、県内高校の沖縄修学旅行用漫画資料制作、小学生バレークラブの沖縄遠征と進展した。特筆すべきは、若い世代が取り組みに参加したこと、三県関係者が互いに訪問し合う草の根のトライアングル交流に発展したことである。沖縄戦から80年。語り継ぎ、平和のためになすべき課題はたくさんある。二人の終焉の地も未だに分からぬ。本書の刊行を待たずに急逝した著者の冥福を祈りたい。

（飯澤文夫）

◆ 2500円・A4判・411頁・悠人書院・長野・202204刊・ISBN9784910490045

『森とかてもの』 ●黒田三佳著



江戸時代には幾度もの飢饉が各地を襲った。『かてもの』は、米沢藩9代目藩主・上杉鷹山が、食べられる野草（救荒植物）を1冊にまとめ、藩内の各地に配ったもので、飢饉の時に多くの命を救ったとされる。著者は北欧デンマークで暮らした後、山形県米沢市に移住。その里山は上杉鷹山の時代に武士たちが半土半農で暮らした場所だった。あるとき隣人がお皿に入ったおかずを届けてくれ、「おいしいですね」と言うと「これですよ」と原っぱの野草を指して教えてくれた。これが

「かてもの」との出会いだった。本書はそんな「かてもの」を使ったレシピ集。タンポポやハルジオン、オオバコなど意外と身近な野草も。また健康への効能も添えられている。「食べられる野草を知っていることはなんだか楽しくて、幸せなことです。今の暮らしの中で鷹山公の残してくれたことを豊かにつないでいけたら幸せです」と著者は言っている。（U）

◆ 1800円・A5判・201頁・山形会議パブリッシング・山形・202505刊・ISBN9784910883038

『金鳳花のフール』 ●山上たつひこ 著



28歳の絵本作家、綾瀬純一。彼は産婦人科医院の前に捨てられており、綾瀬夫婦の養子となつた。夫婦は彼にきちんと事実を話していく、実の親子以上の強い絆で結ばれている。のちに夫婦には女の子が産まれたが、血のつながらない妹、麦との関係も良好だった。

そんなある日、ジョギング中に見えた鉄塔の鉄骨に座り込んでいた女に追いかけられ、意外な話を聞かされる。二十代前半にしか見えない女はエミューという名で、純一の実の母だといい、無実の罪で「水子の国」の刑務所に入っていたと告白。流産したため、純一は一度水子の国へ送られた胎児だったが、芸術の才能があったため、この世に戻されたという。最初は信じられなかつたが、巨大な胎児の風貌をした水子の国の保護調査官タキゲチが現れ、彼の誘い

で水子の国を訪れたりするうちにエミューを守りたいと思うようになる純一。さらにエミューが濡れ衣を着せられた原因となつた人間の女の姿をした怪物との戦いも待つていた。

奇想天外なストーリーを圧倒的な筆力で描き出すのはギャグ漫画『がきデカ』で一世を風靡した山上たつひこ。「お兄ちゃんは金鳳花だね」麦が純一に言う。金鳳花は予想もしない所へ根を張って不意に顔を出して人を驚かす。純一も読者を驚かすのが好きな優れた道化師。これがタイトルの由来だが、まさに著者にもあてはまる。時には残酷で毒の効いた面を見せつづも、家族の愛と再生を謳つた、才能が花開く壮大な小説。(Y)

◆ 2300円・四六判・351頁・フリースタイル・東京・202506刊・ISBN9784867310083

『経験主義者デカルト』 ●田村歩 著



なぜ「経験主義者」デカルトなのか。周知のようデカルトは「近世哲学の父」として名高く、そして近世哲学は合理主義（生得的な観念の存在を認め、それに基づいて演繹的に哲学を構築していく）と経験主義（生得的な観念の存在を否定し、あらゆる知は経験によって獲得されるとする）の二つに大別されるのが一般的であり、デカルトは「合理主義の祖」とも呼ばれているのである。著者は、デカルトの様々な文献を何度も読むうちに、これまで看過されてきたあるテクスト的事実に行き着いた、という。それは形而上学を論じるデカルトの文献において「経験」という言葉が多用されているということである。こういったことは、デカルト以前の哲学者たちにおいては一般的ではなかつた。アリストテレスは経験を、〈感覚を介して得ら

れるもの〉や〈記憶から生じるもの〉とみなしたが、この規定に従うかぎり、感覚を超えた事柄を扱う形而上学において経験は役立たない。しかしデカルトは、その方法的懷疑が最も先鋭化する形而上学において経験という手段を多用する。「彼は自身の存在を、自身のうちににおいて彼が、存在するといふのでないかぎりは思惟するということはありえない、と経験することにおいて学び知る」（『答弁』）というように。本書は、デカルト哲学における「経験」とはいつたいどのようなものであるのか、そしてその「経験」が彼の自我論や自由意志論においてどのように機能しているのかについて論じていく。

(岡安 清)

◆ 2000円・A5判・131頁・大阪公立大学出版会・大阪・202505刊・ISBN9784909933874

『語り部が方言で書いた 高根沢の民話』 ●たかねざわ民話の会 著



高根沢町は、東京からおよそ100kmの距離にあり、栃木県のほぼ中央に位置し、宇都宮に隣接している。日本の原風景とも言える豊かな田園風景が広がり、皇室の台所と称される「御料牧場」があることでも知られる。そんな風土から生まれた民話や伝説を絶やさぬようにと、小学校や老人施設、町文化祭などで民話語りを続けてきた「たかねざわ民話の会」の語り部のみなさんが、途中コロナ禍を経て、九年の歳月をかけて本書の刊行にこぎつけた。高根沢の生活語である栃木弁、高根沢弁といった方言が使われ、語りの臨場感が生きている。興味深いと思われる話は異伝とともに収録されている話がいくつあることだ。例えば、農水省の全国「疏水百選」に選定された上高根沢五行川低地の湧水池「おだきさん」の名称由来伝説。働き者で

美貌のおだきは、奉公先の庄屋の息子に恋したものの成就せず、池に身を投げたとされる。異伝のほうになると、こちらのおだきは対照的で、人一倍意地っ張りとされ、村はずれの沼で夜通し魚を釣つたはいいが、取りすぎて沼の主の怒りを買い、釣つた魚ごと主に飲み込まれてしまう。また、平田地区に伝わる「雪姫塚」は、没落した太田城主の娘・雪姫が許嫁に死なれ、後を追うように川に身投げする話なのだが、結末では塚が築かれ丁重に供養され、美しい悲劇の余韻が漂う。一方異伝のほうでは、娘が身投げした渕からは怨霊が漂っているかのようにうめき声が聞こえる、という怪談話になっていて、結末が明暗反転している。(N)

◆ 1300円・A5判・147頁・下野新聞社・栃木・202506刊・ISBN9784882868989

『10人の文豪と銭湯へ』 ●美園まき 著



今回の旅先銭湯別冊は『10人の文豪と銭湯へ』ということで、作家や漫画家に関わる土地の銭湯をめぐる本です。ゆかりの地を旅してその土地の銭湯を紹介していく本書ですが、その中には実際に文豪が通っていた銭湯も紹介されています。

司馬遼太郎が頻繁に訪れていたのが東大阪市の八戸ノ里温泉。取材に行ってみると「よう来てたよ」という驚きの回答が。しかも銭湯のご主人は、司馬遼太郎からのプレゼントを要らないから断ったエピソードを語るのでした。そういった気取らない雰囲気を愛していたのかもしれませんね。ちなみにこちらの銭湯は打たせ湯が特徴的。一方甲府には太宰治がよく通っていたという銭湯が今も健在です。喜久乃湯温泉は今年で創業百年。太宰治が甲府に住んでいたの

は短い期間でしたが、人生の中でも最も心地よい日々でもあったようです。そこにはきっとここに通うことも含まれていたのでしょう。脱衣所に残されている手書き看板の数々がこの銭湯の歴史の長さを物語っています。一方鷗外の湯というイベントが開催された森鷗外は、実際は風呂嫌い。それでも地元文京区の銭湯は工夫を凝らして銭湯を盛り上げようと、様々にイベントを企画したりしています。旅先ごとに気持ちよさそうな銭湯があり、ひと風呂浸かりに行きたくなりますし、中・高の国語教師でもある著者の語る文学話も楽しくて、とりあげられた作家たちの本も読みたくなる、一粒で二度おいしい一冊です。(副隊長)

◆ 1700円・四六判・155頁・さいろ社・兵庫・202506刊・ISBN9784916052827

地小出版

流通センター

ジャンル別 新刊案内

2025年6月1日～30日

流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は
所在地の北から南の順に並んでいます。

表示されている値段は本体価格となっており
ます。ご購入には別途、消費税がかかります。

【雑誌】

◆S-style 2025年7月
vol. 727 プレスアート編

280mm×210mm 112頁 600
円 プレスアート [宮城] 978-
4-503-23344-8 25/07

◆GREEN REPORT 546
2025年6月号 廣瀬 仁編

A4 191頁 2800円 地域環境
ネット [埼玉] 978-4-909864-
78-9 25/06

◆響き合う街で NO. 113 20
25年5月号 やどかり出版編 B

5 64頁 1200円 やどかり出
版 [埼玉] 978-4-503-23337-0
25/05

◆かまくら春秋 No. 661 20
25年5月号 伊藤 玄二郎編 B6

192頁 682円 かまくら春秋社
[神奈川] 978-4-7740-0923-0
25/05

◆くらしと教育をつなぐ We N

o. 256 2025年6／7月号
中村 泰子編 吉田 真紀子編 A5
80頁 1000円 フェミックス
[神奈川] 978-4-910420-33-2
25/06

◆AXIS Vol. 233 2
025年7月号 徳山 弘基編
297mm×225mm 192頁 227
3円 アクシス [東京] 978-4-
503-23345-5 25/07

◆文芸思潮 第96号 2025年夏
号 五十嵐 勉編 A5 356頁 1
300円 アジア文化社 [東京]
978-4-907958-27-5 25/06

◆地方史研究 第435号 地方史
研究協議会編 A5 150頁 114
3円 岩田書院 [東京] 978-4-
86602-885-9 25/06

◆子どもと読書 472号 2025
年7・8月号 親子読書地域文庫全国
連絡会編 A5 44頁 509円
親子読書地域文庫全国連絡会 [東
京] 978-4-907376-75-8 25/06

◆月刊終活 Vol. 298 202
25/07

5年7月号 吉住 哲編 A4 90
頁 1500円 鎌倉新書 [東京]

978-4-503-23348-6 25/07

◆月刊住職 No. 319 2025
年6月号 矢澤 澄道編 A5 175
頁 1800円 興山舎 [東京]
978-4-910408-58-3 25/06

◆月刊住職 No. 320 2025
年7月号 矢澤 澄道編 A5 175
頁 1800円 興山舎 [東京]
978-4-910408-59-0 25/07

◆子どもの文化 No. 644 2
025年7月号 片岡 輝編 A
5 51頁 500円 子どもの文
化研究所 [東京] 978-4-503-
23347-9 25/07

◆セセデ vol. 772 2025
年7月号 朝鮮青年社編 A4 47
頁 545円 朝鮮青年社 [東京]
978-4-503-23342-4 25/07

◆東京かわら版 No. 625
2025年7月号 佐藤 友美編
203mm×110mm 174頁 727
円 東京かわら版 [東京] 978-
4-910085-61-6 25/06

◆俳句四季 No. 575 202
5年7月号 にしい 洋子編 B5
160頁 1000円 東京四季出
版 [東京] 978-4-503-23339-4
25/06

◆おりがみ No. 600 202
5年9月号 日本折紙協会編 A4
51頁 800円 日本折紙協会
[東京] 978-4-86540-157-8
25/07

壳行良好書

[出荷センター扱い]

- (1)『地方女子たちの選択』1800円・桂書房 (2)『絶景を楽しむ信州日帰り山歩』2000円・しなのき書房 (3)『さくらうまのトドロ』1500円・リープル出版 (4)『水上バス浅草行き』1700円・ナナロク社 (5)『到来する女たち』2400円・書肆侃侃房 (6)『あなたに犬がそばにいた夏』1900円・ナナロク社 (7)『石炭挽歌』2300円・寿郎社 (8)『眼述記』1750円・忘羊社 (9)『たぶの里』1200円・ナナロク社 (10)『水脈を聴く男』2000円・書肆侃侃房 (11)『さきたまの古墳と古代史』2000円・まつやま書房 (12)『菜食主義者』2200円・クオン (13)『現代語訳 上井覚兼日記4』2200円・ヒムカ出版 (14)『たまのののののちゃん』1100円・蜻文庫



[ジュンク堂書店池袋店 地方出版社の本—センター扱い図書]

- (1)『マンションボエム東京論』2700円・日本の雑誌社 (2)『地方女子たちの選択』1800円・桂書房 (3)『調査されるという迷惑 増補版』1500円・みずのわ出版 (4)『つながる沖縄近現代史 増補版』2400円・ボーダーインク (5)『カラー化写真で見る沖縄』2000円・ボーダーインク (6)『地方創生 失われた十年とこれから』1800円・秋田魁新報社 (7)『沖縄の身近な植物図鑑』4500円・ボーダーインク (8)『新装版 奥武蔵登山詳細図 全130コース』900円・吉備人出版 (9)『能登と越中の土徳』1000円・桂書房 (10)『札幌<映画>生活史』2200円・寿郎社 (11)『女の子が死にたくなる前に見ておくべきサバイバルのためのガールズ洋画100選』1800円・書肆侃侃房 (12)『ウミガメ博物学』1800円・南方新社 (13)『北海道の蝶の生活史図鑑 蝶好きの12か月』5200円・北海道大学出版会 (14)『絶景を楽しむ信州日帰り山歩』2000円・しなのき書房 (15)『ジソウのお仕事 データ改訂版』1800円・フェミックス (16)『沖縄さかな図鑑』1800円・沖縄タイムス社



以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。

URL : <http://neil.chips.jp/chihoshou/> X (旧ツイッター) 公式アカウント : @local_small

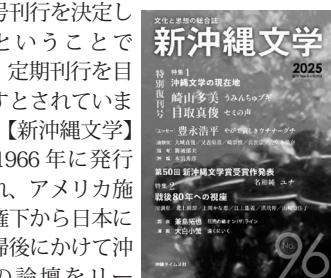
トピックス —★★★

▼昨年よりお知らせしてきました通り、「アクセス」誌は紙の情報誌としては今回の8月号をもって休刊となります。50年の長きにわたり、ご愛読いただきありがとうございました。来月以降は「Web情報誌アクセス」として生まれ変わる予定であります。閲覧を希望される方には、メールにてURL情報をお知らせいたします。よろしければ、当方ホームページの「ご注文方法」下にあります「一般読者様お問い合わせ・ご注文フォーム」内の「書名・ISBN・冊数ほか」欄に「アクセスアップ情報希望」と明記いただき、送信ください。以下「一般読者様お問い合わせ・ご注文フォーム」のURLとなります。

<https://ws.formzu.net/fgen/S400534946/>

▼沖縄タイムス社では、同社が主催する「新沖縄文学賞」の第50回記念と戦後80年の節目に合わせてこの2月、32年ぶりに【新沖縄文学】を復刊したところ(特別復刊96号・ISBN 978-4-87127-318-3)、反響が大きいことから、来年2月に次号刊行を決定したということです。定期刊行を目指すとされています。【新沖縄文学】は1966年に発行され、アメリカ施政権下から日本に復帰後にかけて沖縄の論壇をリードした雑誌で、1993年に95号で休刊。67年の第4号では沖縄初の芥川賞となつた大城立裕作「カクテル・パーティー」を発表。その後も又吉栄喜、目取真俊とのちの同賞受賞者が【新沖縄文学】から生まれました。

▼かつて【RED DIRECTORY ロンドン—英国生活・ビジネス便利帳】などを刊行してきたクロスマディア元代表の丸茂和博氏がこの7月4日に亡くなったということです。謹んでご冥福をお祈りいたします。



地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

ジュンク堂書店 淳久堂書店

池袋本店

営業時間：午前10時～午後10時

池袋であなたのふるさとに帰ってみませんか？

2階「ふるさとの棚」では、
地方小出版センター扱いのご当地本を幅広く取り揃え、
皆様のお越しをお待ちしております。

〒171-0022
東京都豊島区南池袋2-15-5
TEL 03-5956-6111
<http://www.junkudo.co.jp>

